

おじいさん、おばあさんと一緒に遊ぼう

教育課程上の位置付 生活単元学習

実施概要

施設の1階のデイルームで、児童が合奏を行いました。続いて、児童が利用者の座席の間に入り、ボール回しゲームを行いました。利用者の好きな曲が止まった時にボールを持っていた方に、司会の児童が「お名前は?」「好きな食べ物は?」とインタビューをしました。続けて、歌に合わせて全員と一緒に「ドレミの歌」の身体表現を楽しみました。終わりに、児童が利用者にお礼の手作りメダルをプレゼントしました。

活動参加者内訳 当校児童…21人 担当教員…7人
交流先 利用者…40人 担当職員…5人

交通手段 当校と大島高齢者在宅サービスセンターとの距離はおおよそ500m
徒歩で訪問 約5分



ピアノなどでの合奏を披露しました

活動報告 実施日：9月19日(水)

児童代表が始めの挨拶をすると、利用者から「こちらこそよろしくお願ひします」という言葉が掛かり、和やかに会が始まりました。

児童の鍵盤楽器やベルハーモニーを使った合奏後、手作りのマラカスを利用者にも配り、一緒に合奏しました。ボール回しでは児童が利用者の間に入り、音楽が止まったときボールを持っていた利用者に、司会の児童がインタビューをしました。利用者が「好きな食べ物はバナナ」と答えると、「バナナだって!」と児童が伝え、みんな笑顔になりました。

最後に、児童が手作りのメダルを利用者の首にかけると、「ありがとうね」と利用者に笑顔が広がりました。利用者との握手をして施設を後にしました。

当日のスケジュール

- 10:10 学校、施設、SSC、都教委4者事前打合せ(会議室)
- 10:30 児童、大島高齢者在宅サービスセンター着
- 10:40 1階デイルームにて利用者との交流開始
施設挨拶 本日の内容説明(司会:教員)
始めのこたば(児童)
合奏「かえるのうた」
(最初は6年生のみの合奏。その後、手作りのマラカスを配り、利用者と一緒に合奏)
- 10:55 ボール回しゲーム
(4つのテーブルに児童が入って鈴入りボール回し)
- 11:10 「ドレミのうた」を児童と利用者が向かい合って身体表現
- 11:15 終わりのこたば(児童)
- 11:20 プレゼント贈呈
(児童が利用者一人一人にメダルをかけ、さようならの握手)
- 11:30 大島高齢者在宅サービスセンターを出発

■活動のために準備したもの

- 当日のプログラム(児童作成) ■プレゼントのメダル(児童作成)
- ペットボトルの手作りマラカス(児童作成)
- ドレミの歌の身体模倣カード

■工夫したところ

見たり聞いたりしていただく活動だけでなく、持参した手作りマラカスと一緒に演奏や、ダンスをするという活動をプログラムに取り入れました。ボール回しの活動では、児童が利用者の間に入り座ったままで行えるようにし、インタビューの内容も工夫しました。

■実施にあたって注意したところ

通常の授業で行っている学習内容をプログラムに取り入れました。事前に訪問場所を歩行学習で確認し、施設や利用者の日常の様子も写真等で伝え、当日の見通しをもてるよう工夫して事前学習を行いました。

■良かったと思うところ

合奏の発表や司会の練習を積み重ねたことで、利用者の方に褒めていただき、児童がとても喜び自信につながりました。利用者の方が笑顔に向けてくださり、活動を喜んでもらっていることが児童に伝わりました。

■今後に向けての学校からの抱負

今回の実施後に、翌週2回目の訪問を計画しましたが、同じ曜日では全く同じ利用者の方への変わらぬ活動となってしまうため、施設の希望もあり2回目は曜日を変更して訪問を行いました。

次年度は間隔をあげ内容を変えて訪問するか、曜日を別日に計画するようにしたいです。児童にとっては慣れ親しんだ利用者ともう一度交流を行えたらと考えますが、施設とすれば多くの利用者の方に機会をと考えられていて、そのことを知る良い機会となりました。

6年生が行った社会貢献活動については校内で今回の内容や児童の様子を伝え、今後も継続して実施したいと思っています。

当校は、小学部・中学部を設置する知的障害特別支援学校です。「共に学び、共に伸びる」を校訓として児童・生徒の自立と社会参加に向けて、能力を伸ばし豊かな人間性や社会性を育成する教育を行っています。社会参加、地域交流の一環として、近隣の小学校・中学校・高等学校と積極的に交流学习を行っています。隣接する大塚ろう学校城東分教室とも交流学习を行っています。社会貢献活動は、これまで実施していませんでした。

活動の感想

児童・教員の感想

児童

挨拶と司会を頑張りました。おじいちゃんとおばあちゃんがたくさん拍手をしてくれました。ぼくはとてもうれしかったです。おばあちゃんと一緒に遊んで楽しかったです。メダルを渡しました。おばあちゃんと目が合いました。にっこり笑ってくれてうれしかったです。鍵盤ハーモニカで「かえるのうた」を弾きました。たくさん練習したので上手に弾けました。最後にメダルを渡しました。「ありがとう」と言ってくれてうれしかったです。

教員

利用者の方と改めて何ができるかではなく、普段から学習で取り組んでいる合奏や身体表現、ゲームを共有することで、児童もリラックスして関わることができました。何かをしてあげるのではなく一緒に活動を楽しむ中で、喜びや達成感を感じられるよい機会となりました。利用者の方が拍手や手拍子をしてくださり、「上手だね」「ありがとう」という優しい言葉をかけてくださり、児童もとても温かい気持ちになって交流を終えることができました。

施設の参加利用者・担当者の感想

利用者

- 孫を思い出して、胸がいっぱいになりました。
- 子供たちは一生懸命、練習してきたんでしょ。大変よかったです。発表がよかった。歌も一緒に歌って楽しかったです。
- 膝に乗っていいよと伝え、膝に乗ってくれてうれしかった。また来て欲しいです。

所長

城東特別支援学校の児童さんと交流するのは初めてでした。子供たちの一生懸命な様子に、感動される利用者の方もいらっしゃってよかったと思います。歌や身体表現など、子供たちと一緒に楽しんでいる様子も見られました。今まで保育園児に来てもらっての交流などは行ってきましたが、特別支援学校の児童さんとの交流は初めてだったので、体格の大きさに戸惑いました。流れや段取りなど、もう少し事前にしっかり確認できたらスムーズだったかと思っています。今後も交流は続けていきたいと思っています。

■実施までの経過 ※(コ):コーディネーター

- 7月2日 (コ)、当校を訪問。担当教員と打合せ
- 7月17日 (コ)、施設を訪問。当事業を説明し協力を依頼。施設長快諾
- 8月12日 (コ)、担当教員、施設と活動内容打合せ
- 9月18日 担当教員が施設に楽器など搬入。最終確認

交流先



社会福祉法人あそか会
大島高齢者在宅サービスセンター
住所:東京都江東区大島6-14-4-103

■施設概要
通所介護事業(デイサービス) 定員40名



音楽に合わせてのボール回しゲーム



「ドレミのうた」を利用者と楽しく身体表現しました